

横浜市感染症発生動向調査報告 2月

《今月のトピックス》

- インフルエンザの報告数は減少していますが、依然として警報発令中です。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が例年より多い状態が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈2月期に報告された全数把握疾患〉

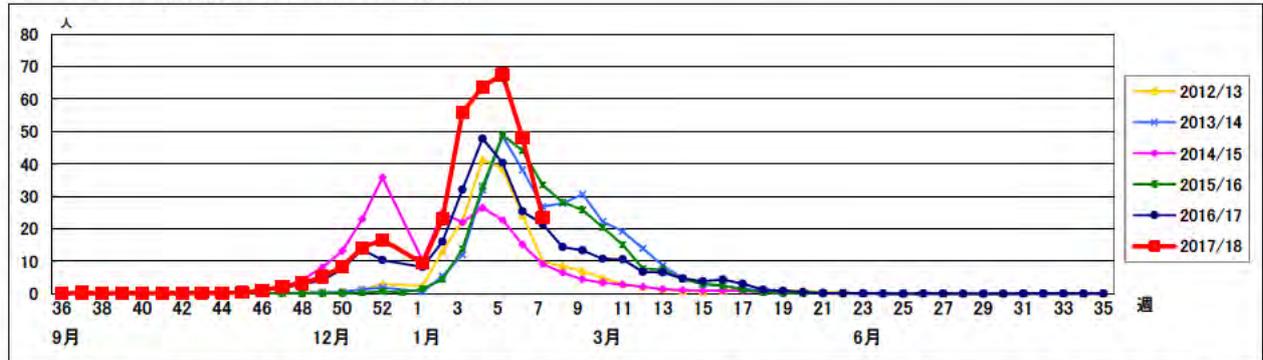
細菌性赤痢	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	4件
腸管出血性大腸菌感染症	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3件
レジオネラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	15件
アメーバ赤痢	1件	水痘(入院例に限る)	2件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	梅毒	16件
急性脳炎	4件	百日咳	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件	風しん	1件

- 1 細菌性赤痢: *boydii*(C群)2型の無症状病原体保有者の報国が1件あり、エチオピアでの経口感染と推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が3件あり、うち2件は同一集団でした。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型の報告が1件あり、感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が1件あり、国内での異性間の性的接触による感染と推定されています。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 4件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 6 急性脳炎: 10歳未満の報告が4件ありました。1件はインフルエンザA、1件はインフルエンザBが病原体と考えられ、2件は病原体不明です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群、B群、G群の報告が1件ずつあり、感染経路等不明でした。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者の報告が3件、AIDSの報告が1件あり、いずれも男性でした。感染経路は、同性間の性的接触が2件、異性間の性的接触が1件、感染経路不明が1件でした。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳以上の報告が3件あり、1件はワクチン接種歴なし、2件はワクチン接種歴不明でした。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: ワクチン接種歴のある幼児の報告が1件ありました。70歳以上の報告が8件(ワクチン接種歴あり2件、なし1件、不明5件)、60歳代の報告が3件(ワクチン接種歴なし1件、不明2件)、40～50歳代の報告が3件(ワクチン接種歴なし)でした。
- 11 水痘(入院例に限る): 10歳未満と20歳代の臨床診断例の報告が1件ずつありました。いずれもワクチン接種歴はありませんでした。
- 12 梅毒: 16件の報告(無症状病原体保有者6件、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期5件)がありました。14件は国内での感染で、2件は感染地域不明です。男性10件、女性6件でした。感染経路は、異性間の性的接触が12件、同性間の性的接触が1件、性別不詳の性的接触が1件、不明が2件です。
- 13 百日咳: 10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴あり)ありました。
- 14 風しん: 20歳代の臨床診断例の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。

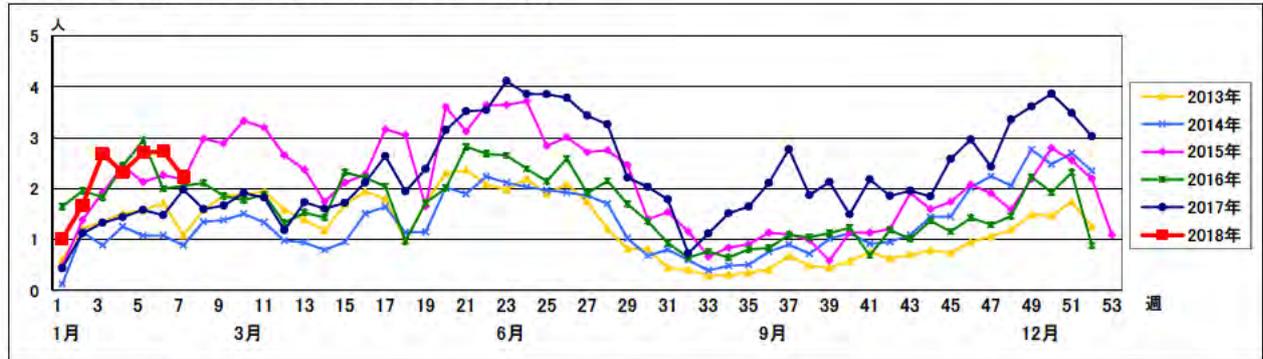
◇ 定点把握の対象

- 1 インフルエンザ:2017年第46週で1.00にて流行開始し、第51週で定点あたり14.19にて流行注意報発令基準値(10.00)を超え、2018年第3週で55.76となり、警報発令基準値(30.00)を超えました。第5週の67.58をピークとして漸減しており、第7週では23.50となっています(警報継続基準値は10.00)。第1週以降、迅速検査キットにてB型が多く、例年に比べてB型の流行が早くなっています。

報告週対応表	
第4週	1月22日～1月28日
第5週	1月29日～2月 4日
第6週	2月 5日～2月11日
第7週	2月12日～2月18日



- 2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。第7週では定点あたり2.23となっています。



3 性感染症(1月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:25件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 5件	女性:7件
尖圭コンジローマ	男性: 7件	女性: 2件	淋菌感染症	男性:12件	女性:4件

4 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週	第7週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.33	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.33	0.00

5 基幹定点月報(1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点49件、内科定点23件、眼科定点5件、基幹定点6件で、定点外医療機関からは8件でした。

3月8日現在、表に示した各種ウイルスの分離株57例と遺伝子9例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ *1	R S 感 染 症	急性呼吸 促迫症候 群
インフルエンザ AH1N1pdm09型			7		
インフルエンザ AH3型		1	16		
インフルエンザ B型山形系統	2		29		
アデノ 2型	2				
アデノ 型未同定					1
RS				3	
ヒトメタニューモ		3	1		
ライノ			1		
合計	4	1 3	52 2	3	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数
*1:疑いを含む

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2月の「菌株同定」は基幹定点から腸管毒素原性大腸菌が1件、サルモネラ属菌が1件、劇症型溶血性レンサ球菌が2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌が3件、侵襲性インフルエンザ菌が1件となっており、サルモネラ属菌は *Salmonella* Telelkebir、侵襲性インフルエンザ菌は NTHi (*non-typable Haemophilus influenzae*) でした。非定点依頼ではカルバペネム耐性腸内細菌科細菌が2件、血液由来の非結核性抗酸菌が1件でした。保健所からの依頼は血液由来の溶血性レンサ球菌が1件、腸管出血性大腸菌が2件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌が1件、侵襲性インフルエンザ菌が2件でした。「分離同定」の検査はありませんでした。「小児科サーベイランス」ではA群溶血性レンサ球菌が3件の検出でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(2月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
医療機関	腸管毒素原性大腸菌	1	O159:H34	
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> O13群	
	基幹定点 劇症型溶血性レンサ球菌	2	A群溶血性レンサ球菌TB3264型 1件、 B群溶血性レンサ球菌 I b型 1件	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Enterobacter aerogenes</i> 2件、 <i>Citrobacter freundii</i> 1件	
	侵襲性インフルエンザ菌	1	NTHi	
	非定点 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Escherichia coli</i> 1件、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> 1件	
	非結核性抗酸菌	1	<i>Mycobacterium</i> sp 1件	
	保健所	溶血性レンサ球菌	1	<i>Streptococcus constellatus</i>
		腸管出血性大腸菌	2	O157:H7 VT2 1件、OUT:H- VT2 1件
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Enterobacter aerogenes</i>
侵襲性インフルエンザ菌		2	NTHi 2件	
小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	3	T1型 1件、T4型 2件	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】